キャラクター名
椿鬼侑朔(つばき ゆうさく)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー エグザイル	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	男
覚醒	素体	衝動	吸血	初期侵食率	38 %
出自	捨て子/施設育ち	経験	破壊	邂逅	師匠/藤科 羽の存在

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	3			7
感覚	3	0	0			3
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	35
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2	5	射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
―――▯マイナー		0				
▯ヴィヴィアナイト		0				赫き剣(侵：3)
↓99		0		↓最大		
HP-2/4/6/8/10	白兵	7r+7		18		10/12/14/16/18

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス「精鋭」	P	N		
冴華満(RC：RE)	P 友情	N 悔悟		
師匠：藤科 羽先生(RC：PU)	P 尊敬	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P： 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
異形の転身	1	5	ｲﾆｼｱﾁﾌﾞ	至近	自身	自動	-	
効果：戦闘移動を行える。1シナLv回/他エフェクトと組み合わせ不可								
赫き剣	5	3	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：消費HP(Lv×2)+8/白兵武器作成/								
破壊の血	1	2	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	ﾘﾐｯﾄ	
効果：攻撃力Lv×3/G値+5/HP-2/{前提}赫き剣								
C：ブラム	2	2	ﾒｼﾞｬｰ					
効果：C値-Lv(下限値7)								
渇きの主	2	4	ﾒｼﾞｬｰ	至近	単体	対決	-	
効果：装甲無視/命中時Ｌｖ×4ＨＰ回復								
鮮血の一撃	1	2	ﾒｼﾞｬｰ	武器	-	対決	-	
効果：DLv+1個/HP-2								
ブラッドバーン	3	4	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	対決	80	
効果：攻撃力Ｌｖ×4/HP-5								
エンタングル	1	2	ﾒｼﾞｬｰ	武器	-	対決	-	
効果：ダメージ付与時対象に[重圧]付与/1ｼｰﾝLv回								
餓鬼魂の使い	2	3	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	-	
効果：対象がHPダメ―ジを受けた際「邪毒Lv3」付与。１シーンLv回								
融合	1	2	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	至近	単体	自動	120	
効果 :ラウンドの間、対象はあなたの持つ《融合》以外のエフェクトを全て使用可能。効果中あなたは移動できず、常に対象と同エンゲージに移動する。重圧状態でも使用可								
瀉血	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果 :身体か出る美しくも禍々しい鉱石のような毒物と引き換えに自身の美しさそして健康状態を保つ/悪くなった血液や老廃物を排出し、美しさを保つエフェクト								
生体侵入	1	4	ﾒｼﾞｬｰ	至近	単体	自動	-	
効果：隠密状態で他者の体内に入り込む								
効果：								

一人称：俺（僕）
二人称：呼び捨て/～さん

「…用がないなら俺に近づくな。」

美しい容姿をしている。一度見ると目を奪われるが
どこか浮世離れをしているようにも見える。またそれが人を寄せ付けないオーラを加速させている。
いわゆる教室の一番後ろの窓際にいるようなタイプ。
それに加え何を聞いてもそっけない。時に辛辣な言葉を言い人を突き放すような人。

――――――――――――――――――――――――――――

生まれつき血液が体外に出ると結晶化してしまう体質であった。
その特異体質を親は気味悪がり早々に施設に引き渡した。
外に出た血液は、皆のように赤く、垂れ流れることはなく、傷口を塞ぐかのように結晶化、
それもガラスのような蒼く美しい結晶を作り上げ、はじめは物珍しさに人を惹きつけたが其れに触れる者全ての身体に害を及ぼしてしまった為人々の態度は一変した。
それでも満くん（平山さんのPC/以下敬称略）だけは僕を友と認識してくれて幼少期、共に遊んで過ごした。
侑朔は幼いながら親に捨てられ、周囲から見放されていた身であったが為に気を許せる相手がいなかった。
だからこそ満の存在は大きかった。同年代だが満に慕い甘える事が多々あった。侑朔は寂しかったのだ。
その時はまだオーヴァードとしての認識はされていなかった。それゆえに自身で制御する…という概念すら念頭になかった。
ある時、それはほんの不注意で、それでも傷口付近には近寄らないだけでいい。これさえ守れば彼らとしてもいつもの日常だったのかもしれない。